

13 評価基準の改定と実技評価試験に向けた取り組み

丸山 満, 伊藤圭一, 木下美香
明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 評価基準, 有床義歯技工実習, 実技評価試験

はじめに

平成24年度より, 学習達成度を評価するためにループリック法による実習の評価基準を有床義歯技工実習に導入してきた¹⁾。

今回, 現行の評価基準の評価項目を精査し, 教員及び学生双方が容易に評価でき, より教育効果が期待できる評価基準とすべく改訂を行った。

さらに, 改訂した評価基準を国家試験前に実施される全国歯科技工士教育協議会の実技評価試験に向けた反復練習へ導入した。

対象および方法

1) 対象課題

課題は全技協実技評価試験に準じ, 全部床義歯の人工歯排列から歯肉形成までとした。

2) 改訂について

評価項目は改訂前と同様の4分類6項目で, (1) 評価のし易さ, (2) 評価結果の記入方法, (3) 学生へのフィードバックの方法について検討した。

3) 実技評価試験に向けた取り組みについて

反復練習は事前の実技指導で, 教員が排列の要点を解説し, 手技を見せる。次いで, 試験時間の意識付けを目的にデモンストレーションを実施した。

練習後は, 改訂評価基準で評価を行い, 教員が評価結果に基づいた実技指導を行う流れを立案した。

結果および考察

3名の担当教員間で, 現行の評価基準で評価のし難さが見られた項目について, 作業手順や客観的評価の要素から検討した。その結果, 「臼歯排列」は排列の原則の再現性, 「咬合接触」は咬合状態の緊密さと咬合接触状態の程度に重点を置き, 高い完成度=高評価となる段階評価に改訂した。また, 振り

返りがしやすいように評価結果の一覧表を作成し, 評価基準と冊子にして学生に事前配布した。

反復練習直後に自己評価, 他の学生からも評価を受けた。さらに, 教員の評価を受け, 自己評価及び改善点を学生と共に確認した。最後に「どこをどう改善すれば良いか」の個別指導を行い, 次回の取り組み目標を設定できるPDCAサイクルを確立した。

反復練習は, 事前指導として教員が人工歯排列の要点について視聴覚機材を使い, デモンストレーションを行った。1回目の練習は, 人工歯排列迄を到達目標とした。2回目より改訂評価基準を導入し, 歯肉形成迄を到達目標とした。また, 3回目の練習では, 教員も学生と共に取り組み, 2時間30分における時間配分の意識付けを行った。以降4, 5回目は学生のみで実施した。

まとめ

評価基準の項目を改訂し, 評価結果を一覧表にすることで, 各々の評価結果の振り返りと次回の目標が明確になり, 評価結果を学生へフィードバックできるPDCAサイクルが確立できた。

全技協実技評価試験に向け, 限られた練習期間の効果的な指導を目指し, 教員のデモンストレーションや, 段階的な到達目標を設定しながら評価基準で評価しながら反復練習を行った。

今後も, 評価基準による実習指導の構築を目指し検討を進めていきたい。

参考文献

- 1) 丸山 満, 中澤孝敏, 佐々木聡, 野村章子, 有床義歯技工実習における評価基準案について, 明倫歯誌, 16, 86-92, 2013